

宮崎県日向市中山遺跡出土の近世人骨

松下孝幸^{*}・松下真実^{**}

【キーワード】：宮崎県、近世人骨、仰臥屈葬、女性

はじめに

宮崎県日向市大字塩見字古城内に所在する中山遺跡の発掘調査が東九州自動車道建設工事に伴つて、2006年（平成18年）と2007年（平成19年）におこなわれた。この遺跡からは中世に築城された塩見城に関連する遺構が検出されたが、調査範囲からは近世墓も検出され、人骨が出土した。

宮崎県での近世人骨の出土例は、宮崎学園都市堂地東遺跡（松下・他、1982）、小林市水落遺跡（佐伯・他、1992）、高鍋町野首第1遺跡（松下、2007）、延岡市吉野遺跡（松下、2007）、中山遺跡（松下・他、2004）の調査・報告例の他に筆者が宮崎県史の原稿を執筆する際に鑑定した宮崎市納屋向遺跡の例（未発表）があるに過ぎない。

宮崎学園都市堂地東遺跡からは7体の近世人骨が出土した。保存状態が悪く、計測ができたものはわずか男性骨が1体で、しかも上腕骨と大腿骨のみであったが、骨体の径はいずれも大きいものであった。水落遺跡からは17体の近世人骨が出土したが、やはり保存状態は悪く、四肢骨の計測ができたものは3体にすぎない。納屋向遺跡からは4体の近世人骨が出土したようで、頭型は男女とも中頭型であった。また、狭・高顎の可能性が予想され、男性大腿骨は骨体が太いものであった。野首第1遺跡から出土したのは下顎骨を含む男性と推定された頭蓋と肩甲骨の一部のみである。保存状態が悪く、頭型が長頭型に傾いていたことを知ることができたに過ぎない。吉野遺跡から出土したのは男性と思われる頭蓋の一部と歯であるが、保存状態は著しく悪く、頭型や顔面の特徴などを明らかにすることはできなかった。2002年におこなわれた中山遺跡の発掘調査では28基の近世墓が検出され、13体の人骨が出土した。体数は多いが、保存状態は1例を除いてあまり良くなかった。頭蓋の保存状態が悪く、頭型や顔面の特徴を知ることはできなかったが、男性の四肢骨は太く、上腕骨と脛骨は扁平で、大腿骨は粗線や骨体の後方への発達も良好であった。またこの逞しい男性は僧侶だったことが推測されており、職種と身体的特徴との関連を探る上では貴重な資料となった。

今回出土した近世人骨は2002年の調査地点に近いが、同じ墓地内ではなく、墓坑の大きさにも違いがみられる。

今回出土した近世人骨の保存状態は必ずしも良好なものではなかったが、現場でできる限りの観察をおこない、性別やある程度の特徴を知ることができた。なお、本稿は報告書掲載用として作成し、提出したものである。報告書「塩見城跡」（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第210集、2012年）には、原稿の内容を大幅に削除され、原稿の一部しか掲載されなかつたが、今後の人類学研究には不可欠なものであるので、本紀要にて埋葬姿勢と人骨形質の全容を公表することにした。

資料

本遺跡からは3基の近世墓から3体の人骨が検出された。3体とも成人骨で、2体は女性骨であつ

* Takayuki MATSUSHITA、** Masami MATSUSHITA〔土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム〕

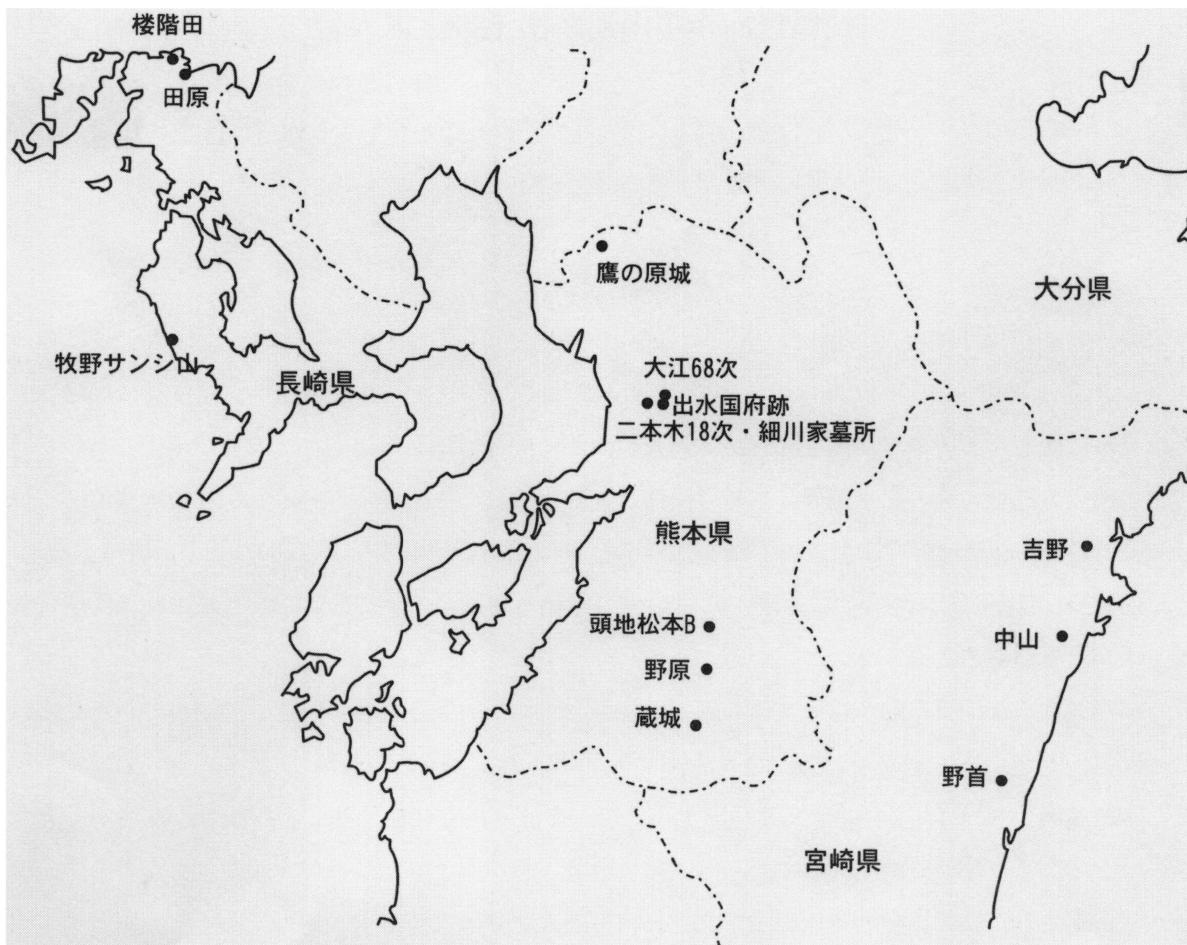


図1 遺跡の位置 (1/25,000)
 (Fig1. Location of The Nakayama site, Hyuga City, Miyazaki Prefecture)

たが、残りの1体は性別を明らかにすることはできなかった。出土人骨の性別・年齢は表1のとおりである。年齢区分を表2に示した。下肢の姿勢については表3を参照されたい。通常、近世墓の墓坑の形態には方形、長方形、円形がみられるが、本遺跡では方形のみで、円形プランは存在しなかった。

なお、本人骨は、墓の形態や副葬品などの考古学的所見から、近世に属する人骨である。

表1 人骨一覧 (Table 1. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	埋葬姿勢	下肢の姿勢	墓坑の形態	遺構	頭位
S D - 1	不明	不明	不明	不明	方形	不明	北東
S D - 2	女性	不明	仰臥	仰臥屈曲 I d	方形	不明	北東
S C - 6	女性	壮年	仰臥	仰臥屈曲 I b	方形	箱棺	北

表2 年齢区分 (Table 2. Division of age)

年齢区分		年	齢
未成人	乳児	1歳未満	
	幼児	1歳～5歳	(第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳	(第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳	(蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳	(40歳未満)
	熟年	40歳～59歳	(60歳未満)
	老年	60歳以上	

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

所 見

S D - 1 人骨 (性別・年齢不明)

墓坑の形態は方形。埋葬姿勢は不明。残存していたのは左右不明の上肢骨の一部に過ぎない。頭蓋は残存していなかったが、墓坑内で上肢骨が検出された位置から推測して、頭蓋は北西に位置していたようである。性別・年齢は不明である。

S D - 2 人骨 (女性・年齢不明)

S C - 1 のすぐ北西に位置する。墓坑の形態は方形。残存していたのは頭蓋と左右不明の大腿骨のみである。頭蓋の位置は北西。大腿骨は後面が上を向いた状態で検出されたことから、埋葬姿勢は仰臥で、大腿を腹部にのせた姿勢で埋葬されていたものと思われる。脛骨は残存していなかったが、膝関節は強屈状態であったと推測される。

残存していた遊離歯を歯式で示すと、次のとおりである。

/ / 6 / / / / / / / / / 5 / / /
/ / 6 5 / / / / / / / / / / / /

[●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存 ／：不明 ▽：先天性欠損、番号は歯種]

[1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯]

咬耗度はBrocaの1(咬耗がエナメル質のみ)～2度(咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ)である。

歯の径はかなり小さい。

大腿骨の径が小さいことから性別を女性と推定した。年齢は不明である。

SC-6人骨(女性・壮年)

1. 出土状態と埋葬姿勢

墓坑は方形で、かなり大きい。頭蓋の位置は北。埋葬姿勢は仰臥で、膝関節は屈曲状態であった。残存していたのは、頭蓋、左右の上腕骨、右側の寛骨、左右の大軸骨と脛骨、右側の腓骨である。上腕骨はほとんど痕跡状態で、泥化していた。右側膝関節は約60度に屈曲し、左側に倒れていた。左側膝関節も約60度に曲げられ、左側に倒れていたが、膝は床からやや高い位置にあった。

なお、墓坑の四隅から釘が検出されていることから、被葬者は木棺(箱棺)に納められて埋葬されたものと思われる。頭頂部や頭蓋の周辺から銅製金具も出土しており、副葬品として銅錢(寛永通宝)も見つかっている。

なお、本墓坑はかなり大きい。筆者らは近世墓でこれほど大きい墓坑はこれまでみたことがない。副葬品が多いこと、銅製金具に金メッキが施されていることと墓坑が大きいことはこの被葬者の所属する階層がかなり高かったことを示唆している。

2. 人骨の形質

残存しており、取り上げが可能だった人骨部位は図2に示すとおりである。

取り上げが可能だった頭蓋は、前頭骨、左右の側頭骨、左右の頭頂骨の一部、上顎骨の一部である。前頭鱗は垂直に立ち上がり膨隆している。乳様突起はやや大きい。左右の外耳道の観察が可能であったが、骨腫は存在しない。現場で観察したところ、鼻骨はやや隆起し、鼻根部は狭い。ラムダ縫合の右側部分が観察できたが、おそらく内外両板ともまだ開離していたようである。

歯が残存していたが、原形を保って取り上げることはできなかった。取り上がったのは歯冠のみである。残存していた歯冠を歯式で示した。

/	7	6	5	/	/	/	/	/	/	/	4	5	6	7	8
8	7	/	5	4	/	/	/	/	/	/	4	5	6	7	/

[●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存 ／：不明 ▽：先天性欠損、番号は歯種]

[1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯]

歯冠の径は小さい。咬耗度はBrocaの1度(咬耗がエナメル質のみ)である。

四肢骨のうち、かろうじて取り上げることができ、比較的原形を保っていたのは左側の大軸骨体のみである。内側を欠いているので骨体の計測はできない。残存部分から推測すれば長さはかなり短いようであるが、矢状径が横径よりも大きく、骨体は後方へよく発達している。

人骨を取り上げる際に右側寛骨の大坐骨切痕部を観察することができたが、この角度は大きい。

大坐骨切痕の角度が大きいことから、性別を女性と推定した。年齢は観察できたラムダ縫合がまだ

内外両板とも開離していたようなので、壯年と思われる。

要 約

宮崎県日向市大字塩見字古城内にある中山遺跡の発掘調査で、近世墓から人骨が3体出土した。保存状態は必ずしも良好なものではなかったが、現場で埋葬姿勢や人骨の人類学的観察をおこない、以下の所見を得た。

1. 今回中山遺跡から出土した人骨は成人骨3体で、そのうち2体は女性骨、残りの1体は性別を明らかにできなかった。
2. 本人骨は考古学的所見から近世に属する人骨である。
3. 墓坑の形状は方形で、埋葬施設は木棺（箱棺）であった。埋葬姿勢が判明したのは2体のみであるが、2体とも埋葬姿勢は仰臥で、1体は大腿を腹部にのせた姿勢、もう1体は膝関節を約60度に曲げて下肢を左側に倒した状態であった。
4. 頭蓋の保存状態が悪く、頭型や顔面の形態は不明であるが、鼻根部は狭く、鼻骨はやや隆起していた。
5. 大腿骨は短く、骨体の後方へ発達は良好である。
6. 2002年には中山遺跡から近世人骨が13体出土している。今回の調査で出土した人骨は体数が少なく、形質的特徴を知ることができなかつたが、1基(SC-6)は墓坑も大きく、副葬品も持つており、被葬者の形質が注目された。残念ながら頭型や顔面の特徴は知ることができなかつたが、大腿骨は短いものの、骨体両側面の後方への発達は良好であった。この例は大坐骨切痕の角度から女性骨と思われるが、副葬品から社会的階層が高かつたことが予想される。北九州市での近世人骨の調査と研究で、武家層では女性でも身体がよく鍛えられていたことがわかっている。今回出土した女性の大腿骨はきやしゃではなく、むしろ頑丈なものであり、少なくとも下半身はよく鍛えられていたようである。この地域の近世社会の実態がわかつてくれれば、被葬者の階層と身体的特徴との関連が明らかになるものと期待したい。

《参考文献》

1. 松下孝幸・他、1982：宮崎学園都市堂地東遺跡出土の近世人骨。宮崎学園都市埋蔵文化財調査概報（Ⅲ）：47-55.
2. 松下孝幸、1997：宮崎県の古人骨。宮崎県史、通史編 原始古代1：784-794.
3. 松下孝幸・他、2004：宮崎県日向市中山遺跡出土の近世人骨。中山遺跡（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第93集）：49-68.
4. 松下孝幸、2007a：宮崎県延岡市吉野第2遺跡出土の近世人骨。吉野第2遺跡（一般国道10号延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3）（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第155集）：160-163.
5. 松下孝幸、2007b：宮崎県高鍋町野首第1遺跡出土の近世人骨。野首第1遺跡II（東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書50）（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第157集）：191-195.
6. 松下孝幸・他、2008：山口県柳井市吉毛遺跡の埋葬姿勢。吉毛遺跡（山口県埋蔵文化財センター調査報告第63集）：72-89.
7. 松下孝幸・他、宮崎市納屋向遺跡出土の近世人骨。（投稿中）
8. 佐伯和信・他、1992：宮崎県小林市水落遺跡出土の近世人骨。小林市文化財報告書第5集：付篇1-20.

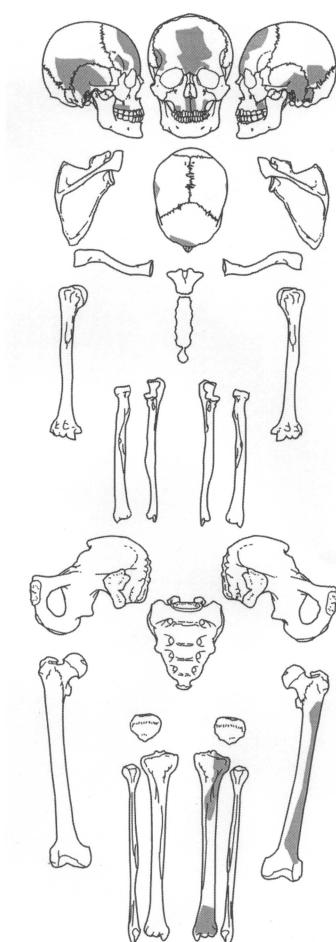
表3 埋葬姿勢の様式 (Table 3. Type of burial posture)

胸部の姿勢	膝関節の角度	下肢骨の立・倒	形式
仰臥	伸展		仰臥伸展
		立膝	仰臥屈曲 I a
		左右一方に倒す	仰臥屈曲 I b
		左右別々に倒す	仰臥屈曲 I c
		下肢を腹部に載せる(注2)	仰臥屈曲 I d
	屈曲(鋭角)	立膝	仰臥屈曲 II a
		左右一方に倒す	仰臥屈曲 II b
		左右別々に倒す	仰臥屈曲 II c
	屈曲(鈍角)	立膝	仰臥屈曲 III a
		左右一方に倒す	仰臥屈曲 III b
		左右別々に倒す	仰臥屈曲 III c
側臥	強屈		側臥屈曲 I
	屈曲(鋭角)		側臥屈曲 II
	屈曲(鈍角)		側臥屈曲 III
坐位	強屈	立膝	坐位屈曲 I a
		左右一方に倒す	坐位屈曲 I b
		左右別々に倒す	坐位屈曲 I c
		下肢を腹部に載せる(注2)	坐位屈曲 I d
		正坐	坐位屈曲 I e
	屈曲(鋭角)		坐位屈曲 II
	屈曲(鈍角)		坐位屈曲 III
伏臥	伸展		伏臥伸展
	強屈		伏臥屈曲 I

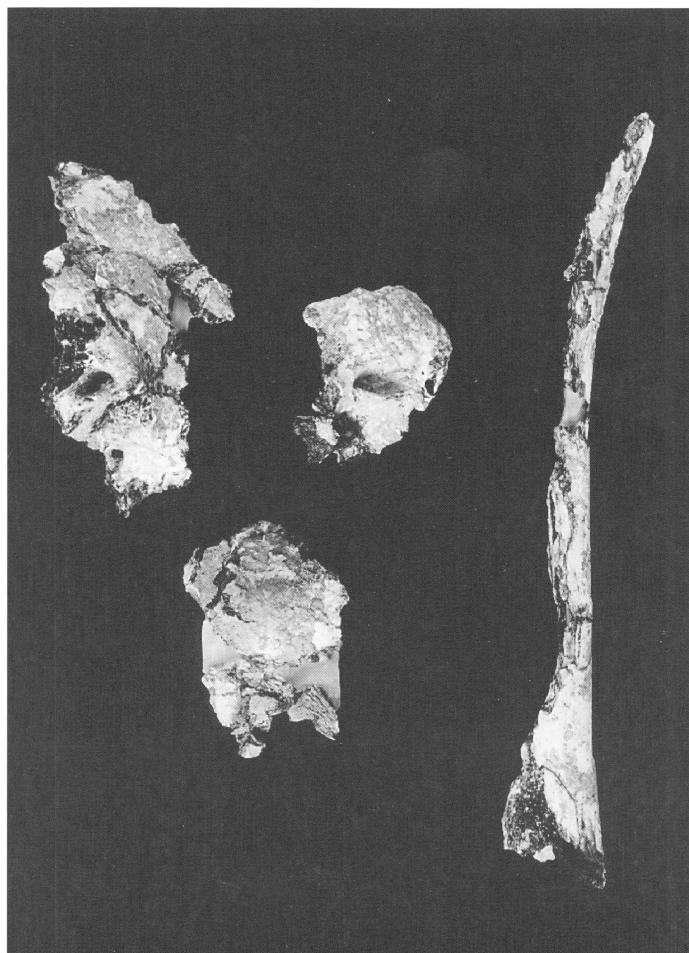
注1：強屈というのは大腿骨と脛骨が接するほど曲げた状態。

注2：踵は地面に着いていない。強屈状態の時は踵と尻が接するぐらい近づくので、骨盤と下部腰椎は寝た状態（仰臥）になる。

坐位屈曲 I d の下半身は仰臥屈曲 I d のと同じ姿勢だが、上半身が立っているので、坐位とする。



中山SC-6人骨（女性・壮年）
図2 人骨の残存図（アミかけ部分）
(Fig. 2 Regions of preservasion of the skeleton. Shaded sreas are preserved.)



中山SC-6人骨（頭蓋・左側大腿骨）（女性・壮年）
(The Nakayama site SC-6, The skull and left femur, young adult female)

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

研究紀要

第8号

発行年月日 2013年3月
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上 891-8
TEL 083-788-1841・1842
FAX 083-788-1843
印 刷 株式会社吉村印刷
〒750-0004 山口県下関市中之町 5-9
TEL 083-232-1190
FAX 083-232-1189
